

## 【初心者向け古文書講座】

# 幕末明治期の横浜生糸売込商から 上田への書簡

上田歴史研究会（上田飯沼史学会）

- 1 日時 平成23年8月17日（水）午後6時半～8時
- 2 場所 飯沼公民館（熊の森センター）上田市丸子生田
- 3 講師 上田市博物館協議会会長 阿部 勇 氏
- 4 次回の予定  
日時 平成23年9月21日（水）午後6時半～8時
- 5 その他  
【開かれた講座】です・誰でもいつからでも参加できます  
・地域外の方の参加歓迎 ★ 受講費 無料
- 6 問い合わせ先  
★ 0268-43-3471 奥村（事務局）  
0268-42-3432 阿部勇氏

## 幕末明治期の横浜生糸売込商人から上田への書簡

阿部勇

### 1 生糸は飯沼村から横浜へ

- ・安政6年(1859)の横浜開港当初から飯沼村・上田町から小県上田の生糸は横浜からヨーロッパ(フランスのリヨンで絹織物となる)へ  
信濃国小県郡飯沼村は岩村田領(内藤氏)―吉池文之助(由之助・定之助)  
信濃国小県郡上田町は上田領(松平氏)―原町伊藤林之助(町田吉五郎)  
原町問屋滝沢助右衛門・綿万(原町島田萬助)・白木屋(海野町土屋仁輔)
- ・横浜開港当初、横浜での吉池由之助と伊藤林之助の活躍  
―外国商人と直に交渉している―中居重兵衛の店や外国商館で  
残された史料 由之助―書簡(父、文之助と―野澤屋・亀屋と)  
林之助―日記

(以上は本史料の前史)

### 2 本史料について

- 幕末明治期(年代未確定)―横浜の野澤屋惣兵衛から飯沼の吉池定之助へ
- ・金札 2925両添、富岡一品物、針道、その他

### 3 読み

- ・ご一緒にどうぞ

### 4 飯沼吉池家が取引した横浜生糸売込商人

- ・中居重兵衛―上州中居村から江戸へ、火薬から生糸へ、飯沼医師松田玄冲
- ・野澤屋茂木惣兵衛(本史料筆の者)―文政10年(1827)上野国高崎質屋大黒屋茂木(もぎ)惣七の長男として生まれる―祖先は下野国芳賀郡茂木(もてぎ) 佐久や丸子との関係は?  
横浜開港前―上田の糸を前橋に(桐生の絹織物商新井家の養子時代)  
野澤庄三郎の生糸売込商店へ勤務―庄三郎没後、野澤屋の暖簾を受け継ぐ  
原善三郎とともに横浜生糸売込商の双璧となる
- ・亀屋原善三郎―飯沼吉池家はこちらとの取引が中心か  
文政10年、武蔵国児玉郡渡瀬の名主格の家(生糸絹の中継商)に生  
慶応元年(1865)、横浜に亀屋を開店  
明治2年(1869)には茂木惣兵衛とならぶ大手生糸売込商に

### 5 おわりに

後家仍恨  
古以是冬之  
荒年積力為  
...

此年冬...  
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

海に雲はかりて  
札子方の上は  
心持上は  
余は  
事永に  
る  
心持上は  
余は  
事永に  
る  
心持上は  
余は  
事永に  
る

・ 美園一子  
・ 多田  
・ 前橋  
・ 全吉  
・ 高田  
・ 高田

・ 前掲を居る道 さらみ

・ 八重を花にお 壱千

・ 五子母信頭 壱千

・ 計及 壱千

一 古きつまき 可しきよ

ハナチ

の... 壱千

吉成定之助 権左衛門 権左衛門



吉成定之助 可成女 壱千

仕立ニ而奉申上候。当地生糸氣配之義者、不相替同様ニ御座候。

此度「ヤマニ」印四箇廿九番方へ七百二十売込申候。式番六百七  
わ入ニ而直段出来仕候。へけなし、七百四枚式分相成候。仕法書  
并ニ金札千五百兩也〔改千四百式十五兩也——行間記入〕さし送  
り申上候。貴地着御入帳可被下候。下店分千五百兩也都合三千兩  
也〔改千九百式十五兩也——行間記入〕差立申候。貴地着御入帳  
可被下候。洋大下落、五十六匁「より」壹分込御座候。札打、大  
ニ而壹兩壹分式朱ニ、小式兩壹分也。御算当被成候而御買入可被  
下候。いづれも一品もの計奉願上候。極々稀もの出来相成候ハ、  
朱判ニ而御遣し可被下候。いづれも店々「より」御案内申上候文  
ニ御承知候事ニハ御座候得共、上田ニ而も長瀬ニ而も売込直段何  
程ニ而もべり七百枚位ニ御座候。信州ニ而も奥州之下もの者五百  
八九拾枚「より」御座候。当時売込直段かゝわらずべり直段奉申  
上候。左ニ。

- 一、富岡一品物 七百廿枚
- 一、同 なれ物 六百七八十
- 一、前橋高崎なれ 六百枚
- 一、八王子提一品物 五百五十
- 一、奥州浜付 六百五十
- 一、同 針道 七百五六十

右通り御座候。早々已上。

八月廿日

のさわや

宗兵衛

吉池定之助様

悦之助様

〔封筒表〕

信州飯沼

吉池定之助様 「より」はま

急用向

金札式千九百廿五兩添

〔封筒裏〕

八月廿日

廿五日着〔異筆〕

野沢や惣兵衛